

1 日時 令和4年9月2日(金) 13:30~16:00

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順、敬称略)13人出席/13人全体

馬居委員、狩野委員、塩野委員、鈴木(拓)委員、鈴木(学)委員、高木委員、高松委員、瀧委員、永野委員、初芝委員、橋本委員、堀住委員、横澤委員

(2) 上下水道局職員

服部上下水道局長、榑原局次長兼水道部長、望月下水道部長、星野水道技術担当部長、柴経営企画課長、山内水道総務課長、森本お客様サービス課長、藤田参与兼水道基盤整備課長、森田参与兼水道管路課長、稲葉水道施設課長、浅井水質管理課長、川口下水道総務課長、大石参与兼下水道計画課長、石原下水道建設課長、大石下水道維持課長、戸塚下水道施設課長

(3) 協議会事務局職員

柴経営企画課長、大石下水道計画課長、外6名

4 傍聴者1人(報道1社)

5 内容

(1) 開会

(2) 議事

① 令和3年度 施策等の進行管理

施策の外部評価意見まとめ・決定

資料1 施策外部評価(案)及び次期計画に向けて

《質疑応答》

【政策1 施策(1)重要な管・施設の地震対策】

※質疑なし。

【政策1 施策(2)浸水対策】

※質疑なし。

【政策2 施策(1)管・施設の老朽化対策】

※質疑なし。

【政策3 施策(2)温暖化対策】

※質疑なし。

【政策4 施策(1)安全でおいしい水の安定的な供給】

※質疑なし。

【政策4 施策(3)接客・窓口サービスなどの充実】

※質疑なし。

【政策4 施策(4)市民参画の推進】

※質疑なし。

【政策5 施策(2)職員の技術習得】

※質疑なし。

【政策5 施策(3)財政の健全化】

※質疑なし。

【全体質疑】

[鈴木会長]

資料の記載に「R」と「令和」が混在しているので、最終的な報告書では、年号の記載を統一するようお願いする。

[永野委員]

資料1の7ページ、9ページの外部評価のまとめ(案)に、委員の外部評価が全員一致でない場合に、なお書きで少数評価の意見について触れているが、この記載の必要性はあるのか。事務局としての判断で記載しているということが良いか。

[事務局]

基本的には多数意見を外部評価として扱ってはいるが、それ以外の評価として意見があった場合に少数意見についてもなお書きで記載させていただいている。委員意見として外した方がよいということであれば外させていただく。

[鈴木会長]

私も事前に確認したが、永野委員と同意見で、本来協議会としての意見を一つに決めるべきと考え、なお書きはいらないと考える。ただ、いただいた様々な意見を評価に反映させていきたいという意味からもこのような記載に至っている。必要でなければ外すのも一案ではあるが、永野委員としてはどのように考えているか。

[永野委員]

個別の施策評価を確認する段階で、他の委員から意見があったものでもないため、広く意見を出している、ということであればこのままの記載でよいと思う。

[鈴木会長]

他の委員でこの件について、なにか意見があればお願いしたい。

(一同異議なし)

[鈴木会長]

外部評価は提案どおりでよいか。

(一同異議なし) ⇒資料1のとおり、外部評価を決定

② 静岡市上下水道事業経営戦略の改定について

概要説明・意見聴取

資料2 静岡市上下水道事業経営戦略の改定について

《質疑応答》

[狩野委員]

水道編を見ると、有収率が全国平均に比べかなり低いとなっている。これは非常に重要な課題であると思う。有収率が低いのは、水道管老朽化に伴う漏水が原因であるとの説明であったので、資

料2の4ページにある目標1の「水道管の更新・耐震化の実施」が確実に進められれば、目標2の「有収率の改善」につながると解釈した。そうすると、あえて目標1の次に目標2として有収率を個別に項目立てする必要があるのかわからないのだが、なにか理由があれば伺いたい。

[柴経営企画課長]

有収率改善のために水道管更新を進めていくことは抜本的な対策になる一方で、水道管の更新だけではなく、漏水箇所を特定し確実に修繕することで有収率を改善していくことも重要な取組となる。

令和2年度の料金改定の際に課題とした水道管の更新と合わせ、今回の経営戦略の改定では有収率の改善について重くとらえているため、有収率対策として漏水修繕と水道管更新の両輪で取り組んでいきたいことからこのような記載とした。

[馬居委員]

計画を立てている中で、必ずDXが取り上げられている。行政のデジタル化が進んでいないというところで記載していると思うが、もう少し具体的な取組内容があれば教えていただきたい。

[柴経営企画課長]

今回の説明は、基本計画として大きな基本方針として掲げさせていただいているのであくまで抽象的な表現となっている。今後、実施計画である中期経営計画の中で具体的内容について示させていただく予定で、目下整理を進めている。具体的な例として、漏水調査にデジタル技術を活用することや、お客様サービスの面からもネット環境を利用して、窓口を訪れる必要がないような非接触型サービスの導入などを検討している。

[馬居委員]

DXとよく言われているが、取組とその効果がもう少し目に見えるように示していただけるとありがたい。コロナ禍の給付金事務を見ても行政のデジタル化の遅れを感じることもあったので、市民が実感として利便性を感じるような取組としてほしい。水道事業において、漏水の発見に役立っていくことは非常に大事なことだと思うので、是非進めていただければと思う。

[鈴木(拓)委員]

水道料金の1年先延ばしとあるが、財政面にどの程度影響があるのか。資料2の6、7ページの内容調整中の部分で検討していることとは思うが、現時点で可能な範囲で教えていただきたい。シミュレーションは実施しているのか。

[柴経営企画課長]

4年間で算定期間として捉えた場合に、それが一年スライドすることで、新しい料金適用期間自体が縮まるというわけではないので、その算定期間で捉えた場合には、料金改定の有無に関わらず収益上は4年間の間では変わることはない。御意見のとおりシミュレーションは目下進めている。

[鈴木(拓)委員]

資料2の4ページの有収率の改善について、新たな手法という曖昧な書き方であるが、リサーチにかかる費用は重要だと認識しているため、具体的に漏水調査方法はどのようなもので、従来の調査手法と比べてコストの変化や見込める効果など教えていただきたい。

[星野水道技術担当部長]

現在の漏水調査は、職員または委託業者が直接路面で音を聞きながら調査を進めている。確実に漏水を発見できることもあるが、時点調査のため、継続的な監視ができていない。今回、新しい手

法として、監視型の漏水調査を検討しており、水道管のバルブに漏水音を感知する機器を設置し、継続的に監視・調査をするものである。費用面については今後検証していきたい。

[鈴木(拓)委員]

これまでは、人力で時点調査していたものを、定点で監視するという解釈でよいか。

[星野水道技術担当部長]

そのとおりである。

[鈴木会長]

一意見として言わせてもらいたいが、以前から企業債残高が気になっている。静岡市として地方債も発行していると思うが、それと比較して上下水道局の借入の条件が妥当なものかどうか検証が必要であると考えます。

企業債残高に頼らざるを得ないのは理解できるが、銀行によって条件は異なり条件が悪いと、元々の借入も大きいため、利息支払いが莫大になることから、もう少し資金調達の方法を検討していただきたい。今は低金利だが、日本がいつまで低金利政策を続けるのかも分からない。明るい見通しがないなかでも、個人を相手にした資金調達を行うなど、一つのコスト削減手段として考えていただければと思う。

③ 第5次中期経営計画策定にかかる変更点について

概要説明・意見聴取

資料3 第5次中期経営計画策定に向けた変更点について

資料4 第4次中期経営計画・第5次中期経営計画 各事務事業の関係について

《質疑応答》

[狩野委員]

第5次中期経営計画には、水道施設の耐震化があるのに対し、下水道施設では津波対策は行うものの、耐震化は行わないのか。

[大石下水道計画課長]

次期計画では、地震時の津波被害が想定される施設の津波対策がメインになるためこのような記載としている。これら事業は耐震化にもつながるものである。

[狩野委員]

この事業では津波対策＝地震対策と考えてよいのか。

[大石下水道計画課長]

耐震化の中でも、南海トラフ地震などの巨大地震により津波被害を受けてしまうことを想定した対策となる。

施設(建物)については耐震診断も済んでおり、耐震化事業においては一定程度対策が完了していることから、今回は津波対策に主眼を置いた対策としている。

[鈴木会長]

まだ時間はあるということなので、質問等ある方は意見記入用紙などを通じて、事務局に問合せしていただければと思う。今回は確定ということではなく継続審議ということで締めさせていただきます。

④ 次期下水道使用料について

概要説明・意見聴取

資料5 次期下水道使用料について

《質疑応答》

[永野委員]

さきほどの議事で使用した資料2の経営戦略の改定のポイントに「建設資材費の上昇等を財政シミュレーションに反映」がある。電気代、資材の高騰分も考慮しながらも、内部留保などを加味して現在の使用料で考えていただいていると思う。

水道料金は、料金見直しを判断するのを1年先延ばしにしているが、下水道使用料ではそのような考え方はなかったのか。

[川口下水道総務課長]

現状のシミュレーションでは、補てん財源にも余裕があり、この先4年間は体制を維持できるという判断になっている。

[永野委員]

資料2の5ページ、11ページの書き方をみて、考え方が統一されていないように思えたため聞いた。今回、の方針で財政上も支障がなく、整理がついているのであれば構わない。

[服部上下水道局長]

水道事業は1年先送りにしてはいるが、下水道と同様今年度から検討はしていた。

資材費の高騰が見込まれる中、水道料金については改定が必要な状態にある。そういったなか、市民への影響等を踏まえ、どの程度の改定率が適当であるか、今の時点では判断が難しいと考え、1年先送りにすることとした。

一方、下水道については、内部留保資金に余裕もあり、使用料改定が必要な状況に至っていないと判断したため、改定判断を1年先送りとはしなかった。

[永野委員]

ただいまの説明で、それぞれの状況について理解した。

[鈴木会長]

事務局の示す次期下水道使用料の方向性（①現行の下水道使用料単価及び体系の維持、②下水道使用料の端数処理の変更）について、異議なしとさせていただきます。スケジュール説明にもあったとおり、私の方で公営企業管理者に提出する意見書(案)を作成するので、次回内容の確認をしていただく。

⑤ 高橋雨水ポンプ場の再発防止の取組及び進行管理について

ア 高橋雨水ポンプ場の供用開始について

概要説明・意見聴取

資料6 高橋雨水ポンプ場について

《質疑応答》

※質疑なし。

イ 再発防止に向けた取組について

概要説明・意見聴取

資料7 再発防止に向けた取組【進行管理シート】

《質疑応答》

[鈴木会長]

第1回に引き続き、この件については詳細な説明をしていただけたかと思う。説明が不十分と感

じる部分などあれば、指摘してもらえればと思う。

⇒特になし。

[鈴木会長]

次回はいつを予定しているのか。

[大石下水道計画課長]

2月の第6回協議会を予定している。

[鈴木会長]

承知した。応急対策については、次回で完了となると思うが、恒久対策は次年度以降も続いていくと思うが、適宜内容を見直し、効率的・効果的に管理・実施してもらえればと思う。

<連絡事項（事務局）>

資料8 令和3年度 決算見込みについて

資料9 施策評価に対する御質問・回答、御意見まとめ

資料10 第2回協議会議事等にかかる御質問・回答、御意見まとめ

資料11 上下水道事業経営戦略概要版（案） 御意見記入用紙

資料12 第3回経営協議会 意見記入用紙

[事務局]

時間の都合上、資料8は会での説明を省略させていただく。解説文と合わせてご覧いただき、なにか意見・質問があれば、意見記入用紙にてお願いしたい。

資料11及び資料12は、令和4年9月12日（月）までに事務局宛て提出いただきたい。

（いずれの資料も提出は任意）

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

（署名）